

第9回開催 知事と語ろう市町村ミーティング in さがえ

【と き】平成22年11月1日（月） 14:00～16:00

【ところ】寒河江市 ハートフルセンター

【参加者】参加者総勢約280名



- 【1 県道元町高屋線の歩道拡幅について】
- 【2 最上川ふるさと総合公園「歴史の丘」にふさわしい公園整備について】
- 【3 子育て支援(予防接種と医療費無償化)の県内格差是正について】
- 【4 人口が減少している中、子育て支援に力を入れて欲しい】
- 【5 教職員の資質の向上について】
- 【6 慈恩寺の文化財保護・観光振興に対する県の支援について】
- 【7 さくらんぼの雨よけテントの継続的支援について】
- 【8 さくらんぼ「紅秀峰」のトップセールスについて】
- 【9 工業にも資金を投入してほしい】
- 【10 国道112号線の4車線化について】
- 【11 最上川ふるさと総合公園の整備について（サル山公園を作って欲しい）】
- 【12 寒河江・西村山における高校再編計画とものづくりの人材育成、(ロボット工学の学科新設)について】
- 【13 認可外保育所の保育料への助成について】
- 【14 つや姫のブランド化について】

【1 県道元町高屋線の歩道工事について】

☆寒河江市 PTA 連合会の会長を務めております。本日、吉村知事様におかれましては、お忙しいところ寒河江においでいただきましてありがとうございます。子どもたちの安全に関わる通学路の問題点について発言させていただきます。

県道元町高屋線の歩道整備についてでございます。県道元町高屋線、栄町ふれあい広場交差点から、JR左沢線八幡原踏切を横断して、若葉町交差点までの歩道が大変狭くて、寒河江中部小学校や陵南中学校へ通う児童生徒が多いことから、大変危険な状態になってお

ります。

沿線には大型スーパーや、商業施設が建ちならび、また市立病院前の商業施設へのアクセス道路として、最近では交通量が大変多くなっております。

また、冬場は除雪した雪が歩道付近を覆ってしまい、車道、子どもたちが車道を通らなくてはならない状態となっております。歩道を広げていただいて、子どもたちの自転車、歩行者が安心して通学できるような整備をお願いいたします。

この事項に関しましては、毎年、寒河江市長宛に各小学校、中学校からの要望事項として毎年挙げているのですが、なかなか実現してもらっておりません。今年は大変雪が多いというふう聞いております。ぜひ、こちらのほうの整備をお願いいたします。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。その道路は、通学路になっているということで、保護者の方、PTAの方は、ご心配なんだろうと思ってお聞きしておりました。

ただ、歩道が全くない道路も、県内には結構ではあると聞いています。冬の歩道の除雪も大事でありますので、その辺のことも含めて総合支庁から説明してもらいたいと思います。

(総合支庁)

建設部長です。ただいまの件でございますけれども、現地のほうを見ますと、道路の幅全部で12mという中で、幅1.5mの幅の歩道が両側についてございます。

現地にいきますと、その道路の両側に人家とか店舗などが大変多く立地しておりまして、なかなか歩道の区画、道路を広げることは難しいと考えているところでございます。

ただ、歩道の中で斜めになったり、段差がついてたり、それから側溝のふたがあったり。それから、歩道の中に電柱なんか立っているようなこともございまして、歩きにくい環境になっているのかと思っているところでございます。

そんなこともございまして、広げることは難しいと思いますが、今の道路の幅の中で、何ができるのかということにつきまして、皆さま方とお話をさせていただきながら、歩きやすくなるように、安全に歩けるように検討してまいりたいと思っております。

それから歩道の除雪でございますが県では10cmから20cmの積雪を超えるようなときに歩道の除雪をすることにしてございます。車とか歩行者の数によりまして、A・B・Cの3ランクに分けて、歩道除雪を行っているところで、ここは、一番上のAランクで歩道除雪をさせていただいているところです。今年はラニーニャ現象で雪が多いかもしれないという話もございしますが、Aランクは、原則、早朝、通学前に雪があった場合には歩道除雪をするということになっております。今年の冬期間も安全で安心な歩行者空間の確保に努めてまいりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(知事)

すいません、本当にすぐ広げるっていうようなことはなかなか難しい状況ということなので、でこぼこの段差を解消したり、古くなった側溝のふたを取り替えるとか、できるだけ平らにして安全にしていくということなので、ご理解よろしく願いいたします。

## 【2 最上川ふるさと総合公園「歴史の丘」にふさわしい整備について】

☆最上川ふるさと総合公園についてお伺いしたいと思います。この公園は、高瀬山遺跡の上につくられたわけです。高瀬山遺跡はご承知のように、約 **90ha** という規模の遺跡だと推定されていて、山形県で最大、南東北でも屈指の大遺跡であるわけです。

ところが、高速道路が開通することになったために、山形県埋蔵文化財センターが **1994** 年から **9** 年間発掘しました。サービスエリアの部分、高速道路の部分、それからふるさと公園づくりの部分、あわせて **25ha** を発掘したんです。これは山形県政が始まって以来の大規模な発掘で、おそらく、これからの発掘はないだろうと、空前絶後の大発掘だったと思います。

発掘の結果ですね、ものすごい量の遺構や遺物が出土しましたがけれども、こうして、**25ha** は遺跡が壊されましたけれども、まだ壊されないで残っている部分があります。

そのうち特に県が歴史の丘と名付けている部分ですね。これは高瀬大橋に抜ける道路の東側の部分なんですけれども、そこに山形県が最初にした施設がスケートパーク。その次に作ったのがドッグラン。犬を遊ばせる場所ですね。そしてバーベキュー広場を作るというふうに聞いておりますけれども、この部分は、縄文時代の大集落が残っていることは確実な場所です。

私が一番言いたいのは、この南東北を代表するような遺跡の上に、埋蔵文化財とは全く縁もゆかりもない、こうした施設が、無計画的に作られていくということに私は理解ができないわけです。

そこで史跡公園を作るとなれば、かなりの時間と金がかかります。これは私も分かります。それで一旦、土盛りをして、利活用を図るのだという説明を聞きますけれども、大量の残土が、この歴史の丘の部分に運び込まれたわけです。

それで土盛りをして活用するんだから、遺跡保護するんだからいいでないかということも聞きますが、ブルドーザーやトラックが大量に入ったために、遺跡の表面がかなり削られ、傷められたと思います。

それから寒河江の市民はですね、高瀬山に行って、縄文土器を拾ってね、わくわくしてこの原始古代のロマンを体験した場所なんですけれども、それが埋め立てられたためにですね、そういうことができなくなりました。

それからドッグランでもバーベキュー広場でもですね、道路を作る、駐車場を作る、水飲み場を作る。それから水道管をかなり長く掘りました。それから近年は排水溝を掘ったんですけれども、これは盛り土の下ですね、遺跡を傷つけています。これ、明らかです

ね。それで7年前にこの会場で、村山総合支庁がですね、市民のための公園づくりの全体検討会というのをここで開いたんですけれども、ところが、その遺跡の上に公園施設をつくる、遺跡があるんだってという説明がですね、全く説明されなかったわけですね。

私は歴史学者、考古学者を集めて、この歴史の丘の部分をどういうふうに利活用するかという検討委員会を立ち上げて欲しかったんですけれども、その委員会もつくられませんでした。

それで、ちょっと長くなってすみません。花咲かフェアですね、8年目になったそうなんですけども、延べ200万人来たんですね。ところがこの会場が、原始古代の大集落があった場所だったということをおね、偲ぶ施設は何もないわけです。

それから最上川を世界遺産にという話がありましたけれども、まさに高瀬山はこの最上川を育んだ歴史文化遺産なわけです。それで私は少し時間が遅れましたけれども、この話は吉村知事が登場する以前に敷かれたレールで、大変恐縮ですけれども、これからでも遅くないと思います。

われわれの子孫のためにも、ぜひ遺跡を活用した公園づくり、史跡公園づくりをめざして努力をいただきたいということを申し上げたいと思います。

(知事)

はい、ありがとうございます。今、おっしゃった最上川ふるさと総合公園を先ほど見せていただいていたんですけれども、高瀬山遺跡という旧石器時代から中世までの大集落があったところということで、大変貴重なところだと思います。

寒河江にとっては本当に次世代に残すべき宝だというふうに思ったところでございます。私、以前、県の教育委員をしておりましたけれども、その歴史的な、先人が残してくれたものに対しては、大事に守ることも一つ、また、それを現代を生きる私たちみんなに市民にとっても活用できる、それも大事なことだと、その2点、両方必要だっているように思っていました。

今、お話がありましたところなんですけれども、確かにスケートパークございました。それからドッグランもありました。ただ、バーベキュー広場は、さまざまな方々の意見というものを市長さんがお取り入れになって、今は芝生広場というような形になっておりましたね。

古墳が非常にきれいに整備されておまして、これは今回の公園整備の中で、古墳の形に県が整備して大変喜ばれているというふうに伺っております。やはりあそこはああいいう形で残し、また、市民の皆さま方のいろいろなご意見をお聞きしながら、整備してきているのかなというふうにも思ったところなんです。それについては詳しく総合支庁、それから寒河江市さんからお聞きしたいと思います。

(総合支庁)

建設部長です。高瀬山古墳の整備につきまして、平成7年にいろいろ調査なされたときに、それ以降、そのままにされ、荒れていたというようなものを古墳の形に整備させていただいたということで、平成22年の6月に完成したところでございます。

その時に古墳だけでなく、その高瀬山古墳の石碑、それから古墳の概要を記述した、解説板も、現地のほうに設置させていただいているところでございます。

それから、古墳については先ほどありましたように、古墳の上での工事だということもございまして、特に歴史の丘の整備につきましては、できるだけ遺跡への影響が少なくなるような形で、できるだけ掘削工事なども行わないような計画をしながら、事業をさせていただいてるところでございますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思っております。

(寒河江市長)

高瀬山古墳ですね。ふるさと公園の整備の関係には去年私も、地域座談会の中で、そのバーベキュー広場というお話を、正直、初めて、お聞きをいたしましたので、総合支庁西庁舎に、市民の皆さんからのご意見としてお伝えしたところであります。

そういったこともあって、知事さんからも先ほど見ていただきましたけれども、やっぱり馴染まないのではないかと総合支庁のほうでご判断されて、芝生広場という形になったかと思えます。

今、おっしゃるように寒河江にとっては非常に貴重な歴史的な財産でありますので、われわれとしては、いろんな形で市民の皆さんに理解していただいて、整備をしていくということが必要だろうというふうに思います。

もちろん、県と一緒にやってということではありますが、この11月13日にもまた、ご案内のとおりシンポジウムを開催させていただいて、古墳について多くの市民の皆さんにご理解をいただくようなイベントを企画して、整備をしていきたいというふうに考えておりますのでよろしくお願いいたします。

(司会)

それでは次、ご発言のある方お願いします。

### 【3 子育て支援(予防接種と医療費無償化)の県内格差是正について】

☆こんにちは。私は子育てサロンエンジェルの者です。今日はよろしくお願いいたします。私のほうからは子育て支援の質問をさせていただきます。

私は県の共育アクションにちょっと関わる機会がありまして、県のほうでもいろいろ支援をしていただいているなあと感じているところでした。今回の質問なんですけれども、現在子育て支援のほうで、医療費の無料化や、補助とか、あと予防接種などいろいろ市町村別でいろいろな支援を行っているようなんですけれども、それぞれの市町村がそれぞれ

別々の形で行ってる形だと思うんです。ある市町村では何歳まで無料とかそういった形で、市町村がこう、なんか優劣をつけあっているような形で行われている感じがするんです。

やっぱり必要としているものであるのに、市町村別でいろいろ体制が違うっていうのはおかしいと思うので、ぜひ県レベルで、統一することに、てこ入れなどを考えていただけないでしょうか。よろしくお願いたします。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。子育てということでございます。私、知事に就任した昨年すぐに、子ども政策室を知事直轄で設置しました。今年はさらにそれを一歩進めていく子育て推進部という、部体制に移行し、子育てを非常に大事に、がんばっていかなくちゃいけないっていうふうに認識をしているところでございます。

今、お話があったようにやはり予防接種、それから医療費無料化、いろいろな子育て支援の面で各市町村がバラバラではないかというようなお話でございます。

確かに子育てをしている方々からみると、どこに住んでも、どこに生まれても同じような支援が受けられることがご希望なのかな、と思うんですが、実際のところは、自治体によりまして、財政規模も違うし、地域の事情で力を入れるところも違うというような、実情・現状というものがあまして、さまざまな財政規模にあった、あるいは自治体の長さんがここに力を入れるというところ、ある町は住宅のほうに力を入れる、ある町は子育てに力を入れる、またある町は企業、産業振興に力を入れるとかいろいろなんですね。

県のほうの立場でいいますとやはり、市町村の自主性、主体性っていうものをすごく大事にしたいという気持ちがひとつございます。同時にやはり、今おっしゃったように一人ひとりの方が、どこに住んでも同じようなサービスが受けられることも本当に大事なことだなんていうふうに、両面を考えております。

ただ、子育てということ考えた場合に、市町村の問題とか、都道府県の問題とかだけじゃなくって、国全体の問題なんだというふうに思ってます。少子化対策も国全体でやらなくちゃいけないんじゃないかというふうに私は思っておりまして、まず、子ども手当っていう現金給付がありますね、それバラ撒きだって批判もあるんですが、でも子育て支援で人口減少を抑制するためには現金給付も私は必要だと思ってます、額はともかくとして。

それと、保育園などの託児所とか、そういうものを施設設備を充実させるという現物給付って言葉使われるんですが、その現物給付も必要だと思ってます。

もう一つはやはり子ども育てるときに父親なり、母親なりが、ちゃんと子育てに関われるような働き方もできるように、長時間とかですね、そういういろんな働き方を見直すという、働き方の見直し。

そして、四つ目はですね、やはり結婚しないと、子どもさんなかなか生んで育てることができないっていう、日本はそういう社会ですから、ところがフランスとか北欧とか、半分くらい違うんですね。

でも日本はちゃんと結婚して子ども生んで育てるっていうのがもう社会常識になってますから、その結婚支援、婚活支援ということをいってますけど、それともう一つ本当に雇用。働き場所がないと、まず結婚もできないんじゃないかと。子育ても安心してできないんじゃないかと。

私はその5点セットでやってかないと人口減少抑制できないっていうふうに思ってますので、知事会でも申し上げてますし、内閣府や厚労省にいても「5点セットで国としてやるべきだ」というようなことを提案しているんですね。

予防接種、医療費無料化も全く私はもう市町村、都道府県というのではなくて、国レベルで本当はね、同じようにやったほうがいいと思ってるものですから、国のほうに働きかけているところです。

県の中でもですね、どのようにしていけるのかということこれから市町村と一緒に考えながら、できるだけご希望に添うような方向に取り組んでいきたいというふうに思っております。寒河江市長さんどうお考えでしょうか。

(寒河江市長)

やっぱり少子化の問題っていうのは、知事さんおっしゃるように福祉行政ということにとどまらず、総合行政というところだと思います。

そういった意味で言われるような支援の問題というものも、もちろん少子化の中で子どもたちが健やかに育っていくためにどうした施策を打つかということになると、やっぱり基本的には知事さんも国のほうにも要望していただいておりますけれども、国策として取り組んでいただくということも必要だというふうに思いますし、また、地域の実情に合った施策ということも必要だろうというふうに思いますので、そこはきちっと役割分担を同じ目標に向かって役割分担をしていくということが、やっぱり必要なのではないかとこのように思いました。

いずれにしても県をあげて、市町村も一緒になって、少子化対策・子育て支援というものに取り組んでいきたいというふうに思いますのでよろしくご理解をいただきたいと思えます。

(司会)

それでは次、ご発言のある方お願いします。

#### 【4 人口が減少している中、子育て支援に力を入れて欲しい】

☆今、子育て支援ということで、かなり県内においてバラつきがあるんじゃないか。予防接種にしても寒河江市ではこうやっていますよ、ある市町村では無料ですよ、というような財政的な面もあるかと思えます。

どうぞ県内においては、ひとつ県の指導でもって、そこら辺をよくチェックしてもらっ

て、どうぞこの予防接種のこれについては無料というひとつ方向性を強めてもらいたいなと思うんですけども、いかがでございましょうか。

それです、続いてさらに知事にお聞きしたいんですけども、人口減少の問題ありました。人口減少の少子高齢化ですね。山形県でも、2006年、5年前あたりのケースみますと、人口が、122万人でございましたけども、去年10月1日現在の人口が、118万人。5年間で4万人ほど減っているんですよ。こういう実態です。

そうしますと4万人というと寒河江市の人口みな、5年間ぐらいで全部無くなってるよ。また、2006年のこのケースみますと、県の予想として人口、122万から50年後先、63万人、ようするに半分になります。

こういう予測を県のほうでなされているわけですよ。こういうような実態があるわけです。ですので、どうぞ、子育て支援、あるいは義務教育の児童生徒、こちら辺とこに力を入れてもらいたいというのが私の希望でございます。以上でございます。

(知事)

ありがとうございます。本当に人口というのは、全ての指標になりうる大切な問題だと思っています。人口が減るということで、労働力も減るし、社会的な活力も低下していくわけですよ。どんどん元気が、社会が元気がなくなっていく、それが日本であり、今山形県、高齢化率が全国で第5位なんですよ。

今、おっしゃったように、一年間で中規模程度の町の人口が一つ無くなっているというように、ものすごく加速しているんです。出生率が伸びず、低下している。それに加えて、仕事がないということで、若者は県外流出。そして高齢者の方はお亡くなりになるというように、本当に大変な状況だというふうに私も認識しております。

本当に景気も良くないし、いろいろ大変であるんですけども、なんとかして人口減少の抑制策は、近々の課題、景気雇用対策も目の前の、喫緊の課題なんですけれども、それ以上の問題かもしれないというふうに私も思っておりますので、できるだけがんばっていきたくて思っております。貴重なご意見、本当にありがとうございました。

(司会)

それでは次にご発言のある方、お願いします。

#### 【5 教職員の資質の向上について】

☆吉村県政におきましては、山形県の将来の人づくりということで、教育に非常に力を入れていただいていることには敬意を表すところでございます。

それで、少人数学級ということで、年度別に実行していただいておりますし、22年度には中学2年の学級も少人数学級が完了するというということで、進めていらっしゃるところでございますけれども、先ほどの話ではありませんけれども、少子化のあおりを受けて、



わざわざ少人数学級にしなくとも、私の推測では山形県の4割ぐらいはもう少人数学級になっているんじゃないだろうか。寒河江市を含めた西村山郡にも7校中学校あるうちにすでに3校は中学校3年まで、もう少人数学級になっているだろう。

ただし、果たしてそういう少人数学級になってるからということで、本当に少人数学級になってない学校よりも、教育効果というのはあがってるんだろうか、ということをお私はずくづく自分の身の回りから考えてみますと、甚だ疑問なところが多々出てきております。

例えば、郡部に入りますと、だいたい小学校の人数というのはだいたい10数人というところが多々ございます。その中で学校の先生とウマ合わなくて、学校に行くのが嫌だ、登校拒否という事態が生じている。たかだか15、6人の子どもたちを果たして一人一人面倒みれないのか、というようなことも実際起きている。

中学校におきましては、もう20数人の学級になっているところに、具体例が大変申し訳ないんですけども、中学1年の1学期の正の数、負の数の数学の問題で、中学校の数学の一番初めの期末テストで、少なくとも60以上の平均点とらないと、その後の2、3年の数学についていかれないのは当たり前なのに、50点以下の平均点をとって、それを自分の教え方が悪くなくて、お前たちは何をしているのか、という事例というのもございます。

私は確かに少人数学級というのも大切かもしれませんが、教育の質をあげるためには、むしろそれを指導する先生方の質なり、意欲なりの向上のほうが非常に大切じゃないかなと、思うところがございますので、例えば採用試験だとか、教員の研修制度だとか、というところをもう一回見直して、やはり形よりも中身で、われわれ若いときは教育県というのは山形県か長野県といわれました。

もう一度、教育県の山形県を復活していただきたいなと思いますので、その辺、形の上からももちろんのこと、中身をもう一度検討していただければありがたいなと思いますので、お願いいたします。

(知事)

はい、ありがとうございます。本当に教育は大事だと思います。そして、まさしくおっしゃるように、教育の質をあげるということは大事だと思っております。

山形県全体が少子高齢化ということで、少人数学級ということを行っておりますけれども、私が就任してから教育が大事だということで、未来への投資というような言葉も使いまして、やはりさまざまな分野でお金を使うことが少なくなったとしても、人づくりはやらなきゃいけないというようなことを申し上げておまして、青年交流なんかは昨年からはじめておりますし、学校教育も少人数学級が今、ご紹介ありましたように平成23年度で中学校3年生まで全部拡充するというにしています。

ただ、山形県の実情を考えた場合に、すでにもう少人数の学級になっているところがはるかに多いというご指摘のとおりでございます。少人数のところをいかにして教育の質をあげていくかというのは本当に本県の場合、課題だというふうに思っております。

確かに教育を考えた場合に、学力も本当に大事なんですけども、人間形成とコミュニケーション力、また登校拒否のような状況をなくしていくということ本当に大事なんですが、しかしながら、学力も大事だっていうふうに私は教育委員会のほうに言っているんですね。

人間形成、そして学力、社会性、いろいろな点で教育はものすごく大事なんですけども、子どもたちを教育する教員、教員の質の向上、採用試験のあり方と、やはりこれからもしっかりと取り組んでいかなければならない課題だと私も認識をしております。

教育委員会は知事部局とはまた別でございまして、教育長が先頭に立って山形県の教育というところをしっかりと取り組んでくれておりますので、教育委員会から説明してください。

(教育事務所)

教育事務所長です。よろしくお願いいたします。少人数学級編制につきましては、平成14年度から他県に先駆けて「さんさんプラン」として実施され、来年度で小学校から中学校まで全ての学校において実施されることになっております。

また、国のほうにおいても来年度から順次、35人学級が実施される方向で検討されているようです。ただ、ご指摘いただきましたとおり、人数が少なくなったからといって必ずしも効果があがるものではありません。少人数を生かしたきめ細やかな指導があってこそ成果が上がるものと思っております。

これまでの授業研究会などとおして研修の充実を図ってまいりましたが、さらに学習指導、生徒指導に焦点をあてた担任力の向上に努めてまいりたいと思っております。

また研修制度につきましては、信頼され、尊敬される教員を目指して初任者研修、経験者研修、中堅教員研修とそれぞれのライフステージに合わせた研修体系を整備し、さらに10年ごとの免許更新制研修と併せて教員の資質向上を図ってまいりたいと思っております。

また、採用試験につきましては、筆記試験はもとより、人物重視の試験として集団討議、個人面接、模擬授業等の実施、民間人による面接など工夫を重ねてきております。そしてまた、より優秀な人材を確保するために、社会人特別選考や現職教員特別選考、年齢制限の撤廃などの改善に努めてきているところでございます。

今後も教育県としての矜持をもって努力してまいりますので、どうかさらなるご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

(知事)

ちょっと話がそれるんですけど、私今年の5月に「日露知事会議」というのに出席してまいりました。それは全国知事会の用務であったんですけども、ロシアと日本の知事会議は、13年間程途絶えていたんですけども、久しぶりに復活したということで、私も手

をあげて行って来たんですが、ロシアは本当に広い国でした。国土が日本の45倍。人口が1億4,000万人。日本は1億2,000万人ですから、国民の数はそんなに変わらないんですが、国土が45倍なんですね。

モスクワからウラジオストクまで飛行機で8時間でした。国内移動に8時間かかる。そして下のほうに広がっているのはシベリアの大地です。人家は見えないんですけど、本当に針葉樹、杉の林、そして川が流れてて、広大なところを延々と飛ぶわけです。

その広大なシベリア大地の下には、天然ガスとか石油とかが眠ってるわけで、資源大国なんですね。ですから、ロシアという国はそういう資源を掘り出して、ヨーロッパに売ったり、アジアに売ったりしてそれだけでもう成り立っていける国なんですよ。

そういう国と日本がどうやって相互協力していけるのかなと思ったときに、やっぱり日本というところは、技術というもので協力していけるのではないかというふうに思ったんです。求められているのも技術と投資でした。それは、ロシアに行っても、中国に行っても同じことを言われました。山形に求めているのも技術だということです。

ですから、知的財産、私は山形県の農業も工業も本当に知的産業だと思っています。その何代も、何十年もかけて、何百年もかけて本当に農業とか工業の技術をずっと積み重ねてきている素晴らしい財産を持った県だと思っています。

それを受け継いでずっと山形県を発展させてもらわなきゃいけないわけですから、やはり人材教育は本当に大事だと思いますし、国のほうで科学立国って言ってますけど、そこにやはりお金をかけていくのも日本という国の将来を考えて本当に必要なことだなんて本当に実感してきました。

ですから、国を元気にするのは地方からだというような気概をもって私は県政に取り組んでいるんです。いろいろな産業をがんばらなきゃいけないけど、教育というものは、人材育成っていうのは本当に、これからもしっかりと力を入れていかなければいけないと思っております。

(司会)

それでは続きましてご発言のある方、お願いします。

#### 【6 慈恩寺の文化財保護・観光振興に対する県の支援について】

☆いくつか、いっぱい、盛りだくさんあるんですが、皆さんが要点だけをおっしゃってますんで、私も本当に要点になっちゃうんで、本意が伝わらなくなっちゃうのが心配なんですけど、そんなことを心がけながらご提言申し上げます。

そのテーマは慈恩寺の歴史的環境の保全と開発観光についてということでございます。近年、全国的な注目を集める慈恩寺の歴史的環境の保全と観光の開発についてお尋ねします。

知事さんもお存じのように、寒河江は藤原摂関家の荘園だったことや、大江家が進出し

たことも手伝って、慈恩寺には中央の仏師のつくった国指定の重要文化財がたくさんあります。さらに法相宗や、天台宗、真言宗などの行事が宗派を超えてとり行われ、慈恩寺の仏像も多種多様なものがそろっております。寒河江市文化財保護委員会委員長は、これを仏教の総合大学と呼んで、高く評価してくださっています。

つい先だって 10 月の 18 日に、私どもも慈恩寺を参拝する機会に恵まれました。そこをよく凝視してみますと、慈恩寺の周辺をみると、悲しい現実が見えてきました。

県重文の山門にはネズミが巣くい、三重塔のそば、筋向かいには一般民家のトタン葺きの建物が建てられていました。歴史的な環境、宗教的な雰囲気は台無しです。私は強く違和感を覚えました。

慈恩寺が有名になればなるほど、今後周辺の土地が買い占められたり、歴史的環境を破壊する開発が予想されます。今のうちに何らかの総合的な対策を強化することが必要なのではないのでしょうか。慈恩寺に残された時間は残り少ないと思っています。

次に観光開発のためには、アクセス、交通網の整備も大事です。新たに整備された幅広い道路は寺の領域のはるか西の一般民家の間を U 字状に数百 m も通り抜けるのです。

バスが通ればそのけそのけバスが通ると、通行人はのけ者にされ、事故や騒音、排気ガスなど観光公害も懸念されます。と、同時に住民に慈恩寺観光への反発が起こらないかと心配すらされます。そうした声が出ないように早急に周辺道路や寺と直結する駐車場の整備が不可欠だと思います。

次の提案は慈恩寺の場所を知らせる交通標識や寺全体を周知する看板を設置して欲しいということです。慈恩寺の魅力はさまざまな宗派が併合してることであり、三ヵ院、四十八坊といわれる一山の形成にあります。この規模は全国的にも広大で、京都や奈良の古寺をしのぎ、比叡山や高野山に迫る大伽藍だと思います。

こうしたことも強調する大きな看板が設置されれば地域の人は地元を誇りを持つだろうし、観光客も改めて和の精神を持つ仏教の良さ、慈恩寺の素晴らしさに感銘を受けるのではないのでしょうか。

そこでぜひ、多くの人により親切でより分かりやすい標識の設置をお願いしたいです。慈恩寺一帯は保護地域になっており、看板などへの規制もあるとも伺っています。

だからこそ行政の文化財保護、観光、交通、土木など関係者が一堂に会して、この障害を乗り越えて知恵を絞り出し、結集していただきたいのです。最後にこの 3 月、市教育委員会の主催で慈恩寺シンポジウムが開催されました。各パネラーから数多くの提言が出されています。

基調講演の NHK 解説委員は文化財保護と観光のあり方についてこう述べました。「歴史遺産、文化遺産は地域の財産であり宝物である。それを守り、育み、発展するのは地域の発展に大いに意義があり、何の気兼ねも遠慮もいらない。かかる事業は関係者のみならず行政、市民が一体となって地域全体で盛り立てていかなければ決して成功しない」と、力強く言っていたのが胸に焼き付いています。

寒河江市でもこれらの提言を受けて事業計画を練っています。つい、28日に国への申請に向けた会合がしっかりスタートいたしました。この機を逃さずに、これだけの大規模な文化遺産を維持、発展させるには、慈恩寺と寒河江市だけではパワー不足が懸念されます。

山形県全体の事業と位置づけ、県が先頭に立ってけん引していただき、できれば住民も巻き込んで、それぞれのレベルで知恵を出し合って、広範な取り組みがなされることを期待いたします。

以上これらの諸点について、吉村知事さん、佐藤市長のご見解なり、お話がいただければ幸いです。

なお、最後に思い起こすと遠い昔、板垣知事と語る会でご質問を申し上げたのは、なんと24年前でした。その時、板垣知事は若輩者の私の質問に対して、アルカディア構想について熱く話していただいたことをカセットテープが思い出させてくれます。

そして今、吉村知事にお話を伺う機会を得ました。折しも、明後日11月3日は文化の日です。黄金色に輝くつや姫に注いでいただいたエネルギー、情熱を、ここ慈恩寺の輝かしき復活の実現に注いでください。

先ほども申し上げましたが、市においても大事業への取り組みがスタートしました。この事業を必ずや達成に結びつけていただきますようにご尽力を賜りたく、心からお願い申し上げます。

結びに、10月の参拝の折に、境内で阿部酉喜夫先生の短歌の碑を見つけました。終わりにこれを皆さまにご紹介をして終わりいたします。「いにしへの匠の技をもるごとし山ふところに慈恩寺の塔」まさしく、砂浜の真砂の中にきらっと光る光明、星の砂をとの考えでした。ありがとうございました。よろしく申し上げます。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。本当に慈恩寺に対する熱意っていうか、情熱がひしひしと伝わってまいりました。慈恩寺、私は何回か訪問させていただいておりまして、いろいろ私も感じております。

この場をお借りして申し上げますと、最上川世界文化遺産を、下ろさせていただきましたけれども、そのままというわけではなく、その山形県の宝、今、崩れ落ちて無くなってしまいそうな宝を今、修理、維持して次代に残しておくことが必要ではないかというようなことを考えて、山形の宝事業というものをやっているんですね。その時に私の念頭にあったのはまさしく慈恩寺と山寺ですね。具体的にはこの二つが頭にありました。もちろんそれが、県内全域にそういう素晴らしい宝が、崩れてしまいそうな宝があるんじゃないかっていうのを思っていたんですね。

ところが政教分離について皆さんもご存じかと思いますが、お寺とか神社と行政は結びついてはいけないっていうようなことがあって、なかなか力を入れることができなかった

たのではないかなと私は思っているんです。

ただ、観光という視点から切り口を考えるとね、神社もお寺もないんです。山形県の宝ということで、観光資源としてやっていけますのでね、ぜひそういう視点を持って、地元の皆さんとしっかりと保存、修理、活用というところにもっていききたいというふうに思ったところがございます。

実際に、県としてやっている事業あるんですよ。昨年度はですね、慈恩寺シンポジウムの開催と、法会の復元、研究でございます。今年ももちろんやっております。国のほうの評価非常に高いです。本山慈恩寺、本山と付くのは県内に他にないと思いますね。

たいてい、東京とかですね、京都とか、高野山とか、比叡山とかあっちのほうにもあるわけでありまして、慈恩寺の場合は慈恩宗で本山慈恩寺ですから、山形県内にある本山なんて私はものすごい宝だと思っています。

地元の皆さんはあまり近すぎてそのすごさに気づかないんじゃないかと私はずっと思っていたんですよ。慈恩寺中に入るとですね、室町時代の絵馬とかですね、もう絵が消えかかっているんですよ。ああいうのね、もったいなくて、知事になってから、山形には芸工大あるじゃないか、そこで修復してもらったらいいんじゃないかって言ったことあるんですけども、そしたら、大学に修復してもらえるようなものじゃなくて、京都のプロ中のプロに頼まないと修復できないようなそういう、ものすごい文化的な程度の高いものだっていうふうに言われました。ですから、本当に国にしっかりやっていただかないといけないことなんだなというふうに認識したところがございます。

慈恩寺に行くと本当に目を見張るような宝がいっぱいあるんです。教育委員のときだったんですけども、本堂の隣りに十二神将像があります。あれもものすごいお宝なんですよ。こんなふうにして大丈夫かと、盗まれるんじゃないかと、赤外線で何かちゃんと守ったほうがいいんじゃないかというふうに私などは思ったりもしました。

いずれにしても大変なお金がかかることではあるんですけども、ただ、本当に山形県の財産であり、寒河江市の財産であり、地元の宝であります。地元の皆さんがなんといってもそのものすごさに気づいていただいて、そこで一步前向きにこう、今もお話していただきましたけれども、これからもですね、県外の多くの皆さんに知っていただくためのさまざまな活動というものを、観光交流にも繋げられるような取り組みっていうものを地元、そして寒河江市、そして山形県のほうも一緒になって、一丸となってやっていかなければならないのではないかと思っているところです。

慈恩寺鐘樓の保存修理の支援も今、行っているところがございます。本当に、どうしてあそこまでね、崩れそうになるまでほっといたのかねって私は本当に思っていました。

国指定に向けての活動についての取り組みを行っていかなくちゃいけないと思いますし、なんといっても地元からしっかりとその気運を盛り上げていただきたいということでございます。

標識、看板というようなご提案もございましたので、しっかりと地元の寒河江市さんか

らも提案いただいたりして、やっていけるところをしっかりとやっていかなければならない  
と思っているところです。市長さんから、よろしくお願いします。

(寒河江市長)

お話にもありましたけど、先月の 28 日、慈恩寺の国史跡指定に向けての推進協議会とい  
うものを教育委員会のほうですね、主体的に努力をしていただきまして立ち上げることが  
できました。

やっぱり、管長さんはじめ、慈恩寺の皆さん、それから町内会の皆さん、それから観光  
協会、それから学識経験者、それからもちろん市の、観光とか教育だけじゃなくて、いろ  
んな分野の課長が集まり、もちろん、県からも教育委員会のほうからもおいでいただいて、  
全体としてこう、どういうふうにトータルの整備をして必要があるか、そして、知事さ  
んからもお話ありましたけども、やっぱり文化財を保全、保護していくということになる  
とやっぱり、国の史跡指定というのが力になってくるだろうというふうに思いましてです  
ね、そういう総合的に推進をしていく組織ができましたので、これからまたその会議を推  
進しながらですね、県のお力をいただいて、史跡指定に努力をしていきたいと思ってい  
るところでございます。よろしくお願いします。

(司会)

はい、それでは続きまして、お願いします。

【7 さくらんぼの雨よけテントの継続的支援について】

【8 さくらんぼ「紅秀峰」のトップセールスについて】

☆さくらんぼ栽培と田んぼをしています。この場をお借りしまして、県産のさくらんぼ  
であります紅秀峰、この件ついて 2 点ほど要望といいますか、お話をさせていただきたい  
と思います。

まず最初に、施設に対する整備事業、いわゆる補助金の関係についてです。これまでさ  
くらんぼに対しましては、雨よけハウス、あるいは品質向上対策、こういった点につつま  
してさまざまな形で事業を提供いただいてきたわけでありました。

これまで施設の整備が進められてきたわけでありますけども、特にさくらんぼは天候に  
左右されやすいということで、ハウスの整備というものは栽培上、必要不可欠な要件にな  
ってきております。

県のほうでも今年度新たに各市町村が独自に指定した作物に対しまして支援する事業を  
新たに立ち上げましてスタートしたわけでありますけれども、寒河江市もこの支援事業活  
用しまして、無加温栽培、特に紅秀峰の無加温栽培、さらには新しい栽培技術であります  
Y 字仕立てといったハウスのほうに支援していこうということで今、取り組んでいると  
ころであります。

このように他市町村に比べましても突出して県の特産であるさくらんぼ作りに積極的に

取り組んでいる寒河江市、そしてわれわれ生産者に対しまして、こういった内容のある支援事業、特にハウス整備関係の支援事業を継続して、ここが大事なんです、継続して提供していただきまして県産サクランボの振興に、一つ強力にバックアップをしていただきたいということが、まず第一点であります。

そしてもう1点ですけども、先ほどから話を出しています、紅秀峰についてです。ご承知のように紅秀峰、今話題のつや姫と同様に山形県が育成して、これまで育ててきた品種であります。大変大粒で甘みがあって、そして日持ちがするということで三拍子そろった素晴らしい品種だと私は思います。われわれ生産者もかねてからこの品種に注目しておりました。

いずれ、この寒河江を紅秀峰の里として産地化しようということで約50haを目標に増殖をすすめてきたところでもあります。聞くところによりますと、今現在約32haほど新植なったということでもあります。

ただ、植えればすぐなるというものではありませんので、まだまだ生産量が非常に少ないということもありまして、知名度の点からいいますと非常にまだまだ低い。特に関東、関西方面の消費者の方々からは、なかなか認知されていない品種のひとつではないかなと、そのように思っております。

そんなこともありまして、寒河江市では市長さん、そして農協の組合長さんによります、トップセールスと、紅秀峰のトップセールスということで、4年ほど前から関西市場において毎年開催しています。

また、2年ほど前からは東京、大田市場におきまして品評会なども開催しました。行政とそして農協と、そしてわれわれ生産団体が、一緒になって消費宣伝活動を行っております。

県のほうでも知事を筆頭にさくらんぼのトップセールス、関東関西方面においてしていただいているようでもありますけども、是非、大変素晴らしい品種であります、紅秀峰という名前と、その素晴らしさと、おいしさというものを全面に出していただいて、声高にアピールしていただきたい、このように願ってるところであります。

いずれ、この寒河江の他にも、他の産地からも生産量がどんどん増えてきます。そんなことから紅秀峰が県のさくらんぼの目玉になるように、そして広く消費者の方から認知されるように本腰を入れて消費宣伝活動に力を入れていただきたいというのがお願いであります。

お願い事ばかりで大変恐縮でありますけれども、吉村知事はまことに農業生産振興に深い理解を示されている、いうようにみております。県の、手元にあります第3次総合発展計画の中にも農林水産業、予算大幅に増やしまして、素晴らしい金額が書かれております。

ただ、残念なのが読んでみますと、さくらんぼの「さ」の字も出てこない。今もありませんしたサクランボの生産振興、特に紅秀峰につきまして、特段のご配慮お願いしたいということ強く希望します。



(知事)

はい、ありがとうございます。さくらんぼの「さ」の字も出てこないということでしたが、出てこなかったってさくらんぼが一番だろうってふうに私は思っております。分かりました、もう一度見てみますね。

紅秀峰、私も知っておりますけれども、ものすごい品種だというふうに思っております。ただ、最初やはり佐藤錦で市場がいっぱいになるものですから、その次にでる品種ということで、確かに消費者の方はさくらんぼっていったら全部同じように思っているかもしれない。

山梨のさくらんぼより、山形のさくらんぼのほうがおいしいって、そこは分かってくれるんですけども、さくらんぼの中には佐藤錦もあれば、ナポレオンもあれば紅秀峰もあるという、そこまで分かってくださってる方はそんなに多くないというふうに思っておりますのでね、その品種ということについてもこれから全農さんと協力しながら周知をしていかなきゃならないかなというふうに思ったところです。

今、おっしゃっていただきましたけれども、農林水産業の再生っていうことを私最初から、選挙のときから掲げておりますし、皆さん方からご支持いただいて当選させていただいたわけで、2月に就任して4月には農林水産業活性化推進本部っていうものを立ち上げまして、さらに昨年の11月には元気再生戦略というものをつくって、ワーキンググループに分けて具体的にどういうふうにやっていくかっていうところを進めてきているわけでございます。

さくらんぼ、もちろん力を入れていきます。9月の補正予算でも生産者の皆さんからかなりのご要望があったので、そのご要望に応えるために長期、さくらんぼの長期被覆栽培についての予算を、かなり大幅に追加したところでございました。これからもご要望をしっかりと聞きましてまいりたいというふうに思っております。

さくらんぼは全国の昔ですと、以前ですと9割だったんだけど、今は7割ちょっとを山形県が生産しております。秋田、青森、果ては北海道まで、さくらんぼ作りははじめましてね、作っちゃいけないというわけにはいかないんで、そしてまた、温暖化のせいで作れるようになってきてるんですよね。だけど本家本元、元祖は山形だぞということで、生産量もですね、もっともっと増やした方がいいと私は言っているんです。

というのは今、首都圏にどうしても目がいきがちですけれども、海外っていうのも将来的には考えられるし、今年は豊作だっていうのを聞いたんで、ちょっと首都圏だけではいけないんじゃないかと思って、ふるさと知事ネットワークのほうにちょっと声かけして、福井県に全農の会長と一緒にさくらんぼ売りに行ってきたんですけど、目の前でもう20分くらいで、300パックぐらい売り切れちゃったんですね。ものすごい人気です。あの辺は果物あんまりとれないところらしいんですね。

ですから首都圏だけじゃなくても売れるところあるんですよ。さくらんぼまだまだ私は

売れると思っています。ですから、さくらんぼの山形、山形のさくらんぼということで、これからもさまざまな施策、事業というものも取り組んで行きたいと思っているところです。総合支庁から補足説明をお願いします。

(総合支庁)

産業経済部長でございます。日頃より、果樹振興のためにご尽力いただき感謝申し上げます。さくらんぼですけれども、今年のメニューとしてさくらんぼ結実確保という形で知事からも申し上げましたとおり長期被覆施設の予算を確保してあります。

知事からも申し上げたとおり9月補正でもですね、各市、町さんのご要望がかなり多かったものですから、大幅な増額補正をしているということでもあります。

その他にも、活力ある園芸産地創出支援事業というのがございまして、こちら4億数千円あるんですが、こちらのほうでは加温ハウスなり、無加温ハウスなり、そういうものに補助できるような仕組みになっております。

また、資金の点でも県の資金で農業近代化資金、それから公庫資金でスーパーL資金、経営体育成強化資金、こうした補助金と資金と両方のお金で支援策をいろいろ用意しているということになります。

継続というところが大事というお話がありましたけれども、今日もそういうお話を聞きましたので、生産者の皆さん、それからJA、流通、経済団体、そして市、町さんのお話をよく聞かせていただきながらですね、23年度の予算化をどうしていくかということについて、しっかりと検討していきたいと思っております。

#### 【9 工業にも資金を投入してほしい】

☆ちょっと質問させていただきたいんですけども、大変さくらんぼ、山形県基幹産業、農業ということを全面に出された話になっておりますけれども、どうかですね、両輪とか工業、産業、そういう面にもですね、大車輪に資金投入してもらって活発化させてもらいたいと思うところなんです。

と、申しますのも、県内の所得、税収、総体の3%は農業、第一次産業なんですね。あと第二、第三次産業で90%、80何%このようになっているわけです。だからもう少し工業、寒河江の工業団地とか、90%ぐらい進んでいるんだそうですけれども、そういう面にももう少し力を、県として力を入れてもらいたい。

そうすることにおいて雇用が出てくる、だと思います。農業人口は今3%です。そういう面でひとつ、そういうこともですね、念頭において県政をやってもらえるかな、このように思うところです。

(知事)

ありがとうございます。私は農業のことを基盤産業というふうに言っております。山形

県民の 10 人に 1 人が農業に関わっており、ただ、第 2 次産業、第 3 次産業がおっしゃるように、もっともっと比率が多いわけでございまして、農業以外の産業、工業をですね、基幹産業っていうふうに言っております。

基盤産業と基幹産業をちゃんと使い分けておりまして、何で農業にばかりこう力入れるんだって、何でつや姫の宣伝ばかりするんだって言われるんですけども、農業があまりにもね、予算的にもいろいろな施策的にもどんどん、どんどん小さくなってたんですよ。

そこはやはり従来ある山形県の農林水産業の技術をもっともっと生かして、そこに付加価値もつけて加工したりして、雇用も増やしていくっていうところをやっていききたいというのでやっているのですが、そこを全部、それだけやってるわけでは全くなくて、工業というところにも力を入れておりますので、これからもですね、基幹である工業のほうはしっかりやっていききたいと思っています。

なんでかどうしても農業のほうが目立ってるみたいなんですけども、また農業のほうで元気が出てきているというふうに聞いておりまして、そのことは大変喜ばしいと思っていますんですけども、もちろん工業のほうもがんばっていききたいと思っています。

ただ、本当にリーマンショック、一昨年のリーマンショック以来ですね、世界的な、また、日本的な、もちろん山形県内全域の工業がなかなか厳しい状況にあるというのが実際のところのございます。

ただ、産業振興と雇用というのは表裏一体のございますので、しっかり取り組んでいきたいというふうに思っております。

(司会)

次にご発言のある方、お願いします。

#### 【10 国道 112 号線の 4 車線化について】

☆私は国道 112 号線の長崎の大橋の北側にある地区に住んでおります。寒河江市においてはもっとも南に位置しているということでありまして、この地域は 112 号線との関わりが非常に深いわけでありまして、112 号線は内陸と庄内を結ぶ重要な道路であります。

また、地域沿線地域においては生活道路になっております。それでもこちら側で考えているイメージと外のほうから見るイメージは時として大きな隔たりがあります。

例えば寒河江の住民が山形に車で行く場合、ルートイメージがすぐできますが、反対に山形に住んでいる人が寒河江に来る場合にはなかなかイメージができなく、足が重くなるのではないかと思います。山形市の若い人に寒河江について天童や東根、上山に比べ、町のイメージが暗いと言われていることがあります。

これは国道 13 号線のような大動脈が寒河江市を通過せず、通過道である国道 112 号線も完全 4 車線化になっておりません。特に山形市、中山町間などは単線のところもあり

ます。このことが大きな要因の一つと考えられます。

山形自動車道、高速自動車道もありますが、町中を通る 112 号線は寒河江市や沿線自治体生命線であると思っております。ぜひ、山形から寒河江まで国道 112 号線全線 4 車線化をお願いします。

国道であるため難しい点もあると思いますが、なんとか国に対してこの路線の重要性を訴えていただき、実現に導いていただきたくお願いいたします。この波及効果は計り知れないものがあると思います。どうかよろしくお願いいたしたいと思っております。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。国道 112 号線のお話でございます。山形市から国道 112 号線という、県都山形市から西村山地域を通して庄内地域までを結ぶ産業経済活動において極めて重要な路線でございます。

国土交通省におきまして、寒河江の市街地部から寒河江インターチェンジまで、さらには中山町へ向けて順次 4 車線化を実施し、また現在は、山形市内の七日町から城北町の区間までの 4 車線化の事業を実施中でございます。

おっしゃるとおり本当に寒河江の活性化についても非常に大事な道路でございますので、国道 112 号線の整備について、さらに国土交通省へ働きかけてまいりたいというふうに思っております。総合支庁から補足してください。

(総合支庁)

建設部長です。国道 112 号につきましては国のほうで直接管理している道路でございます。最近の社会資本、公共投資への見直しの関係で、継続箇所を重点的にやっというふうな流れでもございます。

そんな中で、先ほど知事が申し上げましたように、今、112 号では、山形市内で今、道路改良工事やっております。これにつきましては平成 14 年から取り組んでいるわけでございますが、奥羽本線に四車線の橋をかけなくてはなんないというようなこともありまして、もうしばらくかかるのかなと思っておりますが、これについて早期に完成してもらうことが第一義なのかと思っておりますので、早期完成、事業促進早期完成を国のほうに要望してまいりたいと思っております。

それから、おっしゃっておりますバイパスでございますが、今年の平成 22 年の 3 月に先ほど申し上げました 112 号を管理しております国の山形河川国道事務所のほうでバイパス化の可能性を探るための路線の業務検討業務を発注していることでございます。

このことからいたしますと山形都市圏、山形と寒河江、上山とかそういった含めて、その圏域の将来の道路のネットワーク、人の交流とか物流、それから通勤通学とか、通院など、そういった生活道路としてのそういった全て道路のネットワークが、県内のネットワークがどうあるべきか、というようなところの検討と併せて、おっしゃったところの道路

についても検討されていくのかなというふうに考えております。いずれにいたしましても、県のほうからも国に要望してまいりたいと思っているところでございます。

(司会)

お次の方、お願いします。

**【11 最上川ふるさと総合公園の整備について（サル山公園を作って欲しい）】**

☆子育て支援の一端として、また世代間交流のふれあい広場として、最上川ふるさと総合公園の一角にですね、子どもの国を整備していただきたいと要望いたしたいと思います。

あの公園に遊具などあつと、子どもや孫連れて、しょっちゅう遊びに行くんだけどな、また、遊具も大人も一緒になって遊べるといいんだけどな。また、暑いときあの公園行くと熱中症にかかる。それはどうしてかと聞きますと、高い樹木がないために日陰がないと。ですから、当然、子どもなんか連れて行かれないと。こんなような、よく声を耳にしております。

そんなわけで、やはり立派な公園でして、本当に山形県を代表する景観、母なる川最上川が流れている、春には桜、桃、さくらんぼの花が一面に咲きほこる本当に山形県一の公園でございますが、ぜひひとつそこに、小さな子どもたちが遊べるような遊具と、また、付き添いの大人も一緒になって遊べるような遊具、しかし、私は観覧車のようなあんな金のかかるお話はしません。そういう遊具をぜひ整備していただければと。しかし、遊具だけでは子どもの国ではちょっとインパクトが小さいので、私はこれからユニークな提案をさせていただきたいと思います。

山形県には大きな動物園はございません。それでやはり子どもの国であれば、動物とのふれ合いというコーナーもよいのではないのかな。じゃあライオンとかゾウとかそんな大型、お金のかかる動物ではなくて、私はサル山公園を作っていただきたい。

あそこにすり鉢型の穴を掘って、サルをそこに収容するんですね。では、なぜサルなのか。ここです。サルは今ちょっと噛みつきサルなんて嫌われてますけども、サルは愛嬌があつてですね、大変子育てが一生懸命で、そして乳離れをすると今度群れ全体でその子どもを面倒みるという、なにかしら今、人間社会へ警鐘を鳴らしてくれるような動物ではないのかと、こんなことでございます。

そしてまた、動物、サルはですね、よく増えすぎて困ったという自治体もあるやに聞いておりますから、比較的安く手に入るのではないかと。

それからですね、動物園の記録をみますと、どの動物に一番お客さんが見ている、滞在時間が長いかというのとサル山なんだそうです。

サル山に来ると子どもでも若いカップルでもキャーキャーキャーキャー、サル以上になって喜んでいつまでも見て、自分の持っているせんべいを下に投げてやったりね、いると。こういうようなことで、ライオンやトラよりもサルの滞在時間、見てる時間が長いという

記録があるそうであります。

それからですね、餌代です。寒河江、西村山をはじめ山形県は果樹王国でございます。落下した果物とか、傷物で売り物にならない果物など、比較的安く手に入るのではなかろうか。それからあそこの公園の脇には温泉が通っております。その温泉を使えばですね、衛生的でもありますし、また、あの熱を利用すれば冬期間でも開園できるのではないかと思います。

私ね、本当に一番見たいと思うのは冬、温泉さ入ってサルがね、手ぬぐい頭の上にあげてるような姿を想像するだけで私は本当に幸せだなと思うような、こういうこと言っている私が幸せでございます。

それでですね、さらに利便性がいいです、利便性が。スマートインターがあって、県内各地からね、ああ、あの寒河江のあの公園さ行って、おサルさんと会ってこようとかね、遊んでこようとか、県内各地から来ますよ。ひょっとしたら仙台のほうからも来ますよ。そして一つの観光スポットになる。

今、老人クラブさんね、もう山形県の観光スポットみな歩いて行くことがないって言って、福島県にまで足を伸ばしているような状態なっているんです。そこにもし、サル山公園と融合された子どもの国というものが整備されたら、どんなに素晴らしいことになるかなど、こんなことを思いまして、ご提言させていただきました。ありがとうございます。

(知事)

ありがとうございます。なんか、お話を聞いているだけでもうなんか楽しい気持ちになりそうでございます。いや、本当に最上川のふるさと総合公園、さまざまなご提案をいただいているようでございます。

先ほどの古墳というものも大事にしようというお話もございました。ただ今はユニークなサル山公園をとというお話でございます。本当に公園というと、子どもがのんびりとゆったり遊べるというようなことが本当に最初に浮かびますね。

今日は市長さんに案内していただきましたけれども、あれだけ広い公園で、しかも最上川が一望の下に見渡せてですね、古墳というものも整備されて、まわりには果樹というものも本当たくさんいろんな種類が植えられている寒河江ならではの景色だなんていうふうに思ってきたところでございます。

最上川ふるさと総合公園は、平成 14 年に花咲かフェアの主会場となって、平成 23 年度の完成を目標に整備を進めてきております。公園整備につきましては市民の皆さま、県民の皆さまのご意見を取り入れながら、多くの皆さま方に親しまれる整備となるように、コミュニティ広場に屋外遊具施設を設置しております他、多くの来園者に楽しんでいただけるように年間を通じてさまざまなイベントも開催しているところでございます。

昨年は私、庄内から公務の帰りにちょっと寄りましたら、ここ高速道路と直結しているんで本当に寄りやすいんですね。全国から来やすいと思います。その時、駐車場がもの

すごく混んでいたんですよ。聞いてみましたら、スーパーカーの集まりだっていうことでした。

昨年、初めて開いてみたら全国からなんか、集まりやすいということもあって、たくさんスポーツカーが集まったというふうに聞いております。山形県内の高速道路はほぼ無料化でありますし、土日の割引とかいろいろありましたのでね、本当に寒河江のあの公園はこれからますますこう全国からお客さんを引き入れるといいますか、非常にこう、立地的にいいんじゃないかっていうふうに私は思っております。

まずは地元の皆さんが楽しめる空間をとということだろうと思っております。確かにサル山というのは魅力的かもしれないんですけども、さまざまな課題もあるようでございます。どのようにになりますか、総合支庁のほうからちょっと話を聞いてみたいと思います。

(総合支庁)

はい、建設部長です。最上川ふるさと公園は平成7年から約29haという公園づくりをしてきてございます。15年からは住民参加型の公園づくりということでワークショップなんかも開催しながら、市民の方々からいろいろ意見なんかをいただきながら、公園づくりを進めてきているところでございます。

先ほど知事が申しあげましたコミュニティ広場、これ新寒河江温泉のところの脇にあるんですが、それ平成17年の6月に開園しているわけですが、バドミントンなんかの軽い運動ができる芝生の自由広場と、それから一応、遊具広場という形で構成されているコミュニティ広場がございます。

この遊具広場にはキリンブランコとか、ピエロシーソー、それからコンビネーションなど6種類の遊具なんかも置かれていますので、ぜひご利用いただければなと、こういうふうに思っているところでございます。

それから交通的なそのメリットを生かしていろいろ地域との交流のためのイベントをやっているわけですが、「花咲かフェア in さがえ」とか「スーパーカーミーティング」、「雪合戦大会」なんかも行っているところでございます。そんな中で「花咲かフェア in さがえ」については平成15年から8年で200万人を超すような状況になってきてございます。

それからサル山公園でございますけれども、おっしゃることもなかなか面白いなどは思うんですが、知事も申しあげましたように一応、この最上川ふるさと公園の整備につきましては一応来年度完成を目途に今、進めているところでございまして、サル山ということで生き物を飼うことにつきましては管理面とかいろんな面で課題があるのかと思っております。ご理解をいただけるようお願いしたいと思います。

(司会)

お次の方、お願いします。

【12 寒河江・西村山における高校再編計画とものづくりの人材育成、(ロボット工学の学科新設)について】

☆今日は農業ばかりでなく、教育にも工業にも興味関心の深い知事さんに、いろいろとお聞きしたいと思います。

今日は寒河江、西村山における高校再編と人材育成についてということでございますが、整備計画もだいぶ煮詰まっていると思いますが、ここでお聞きしたいのはそういう計画の形態ではなくて、西村山、寒河江における人材の育成に関することでございます。

先ほどから人口が減ってきているということで、話になっていますけど、ほぼ25年後には寒河江は3万7,870人と推定されていると。現在は4万3,440人ということで1万なにがしの減と、急激な減少が予想されるわけであります。

今、高校再編が進んでいるんですが、その人材に関わる基本的な考え方を吉村知事にお聞きしたいということでございます。

続きまして、寒河江には工業団地というのが形成されておまして、その他技術交流プラザなどもあって、企業と学校が非常に良好な共存共栄の立地条件にあると。また、就職困難なときでも相互理解を深めて、非常に良い関係であると思います。

そういう意味で、工業高校、ものづくりというのは地域に果たす役割というのは非常に大きいと思いますので、ものづくり教育を存続して欲しいと。特にその中で次世代産業というのがあるわけですが、一例を申し上げますと、私はロボット工学、学科、工学科などもいるのではないかと。

というのは、今から介護、介護ロボット、それから少子化に伴う労働力の確保、これもロボットでございますので、こういった学科を取り入れて、そして誘致企業でも、あるいは地元企業家でもいいし、ロボットに関する企業を設置すれば、寒河江は豊かな町になるんじゃないかということで、これも要望ですが、感想などをお聞きしたいという、時間もないのでこの辺で終らせていただきたいと思います。

(知事)

はい、ありがとうございます。寒河江、西村山における高校の、これからの高校に対するご提案をいただいたと思っております。人材育成、本当に私は大事だと思っております。高校進学してまた大学へ進学してっていう、そういうところに力を入れるのも大事なんだけど、地元に残る人材っていうのも、それ以上に大事なのではないかというふうに思っているところでございます。やはりこの山形県の将来を担って発展させていってくれるのが地元に残る方々、また地元に戻ってきてくれる方々でありますので、そこは大事にしていきたいというふうに思っております。

さらにその技術というものが、これから本当に日本が生きていく上で、山形も生きていく上で、知的産業として農業はもちろんだし、工業もちろん大事と思っております。

おっしゃるように寒河江工業団地はありますし、寒河江は農業も工業も両方ある balan



スの取れた地域だって最初に申し上げたんですが、そのように思っております。

次世代産業ってということで具体的にロボットというようなご提案をいただきました。本当にありがとうございます。そこを、はい、どのようにしていったらいいのかっていうふうに持ち帰らせていただきたいなというふうに思っていますけれども、西村山の高校、寒河江、西村山における高校ということについて、教育委員会としても検討委員会などを立ち上げて取り組んでいるところでございますので、教育事務所のほうからお話をさせていただきたいと思います。

(教育事務所)

はい、教育事務所長です。西村山地区の高校再編計画については、地域の皆さまの声をお聞きしながら、検討委員会で検討を重ねて、キャンパス制により3つ、もしくは2つの案が本年2月に出されております。

いずれの案におきましても、地域産業を担う人材の育成と、生徒の多様な進路希望に対応した農業と工業の専門学科と総合学科を併置した高校案が示されております。今後、昨年6月に出されました、産業教育審議会答申も踏まえながら、今年度中に再編整備計画を策定して再度、各市町村で地域説明会を開催させていただく予定です。

なんといっても地域のニーズを踏まえた子どもたちの教育環境の確保が一番でありますので、今後、地域の皆さまのご意見をお聞きしながら進めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(司会)

次にご発言のある方、お願いします。

### 【13 認可外保育所の保育料への助成について】

☆私は市内の保育園の者です。青空の下いっぱい遊ばせたいということで寒河江のシンボルの長岡山、毎日、冬も山登りをしたり、二の堰の散歩っていうことで、川のせせらぎを見せたりってことで、お散歩カーに乗せて子どもたちを連れて行ったり、石持のさくらんぼ畑の農道を歩かせていただいたりして、自然にふれ合いながら心も体も丈夫に育て欲しいと願い、日々保育にあたっております。

認可外保育園を運営する立場から、お願いがあります。現在、0歳から3歳まで37名のお子さんを今、お預かりしております。3歳未満の乳幼児に対しての助成制度は今現在ありません。保護者の方の保育料の負担が大変大きくなっております。

初めての育児の不安とまた、経済的な不安を抱えている状態です。お隣り天童市では、認可外保育園に預ける保護者に対しての助成ということで、補助金のほうが今年度よりスタートしております。新聞などでも皆さんご存じかと思いますし、寒河江でのスタートについても何度か要請しているところですが、難しいようで、まだはっきりしたお返事をい

ただいております。お金がなくて、なかなかね、二人は無理だなあ、なんて言葉を現在も聞くことがあります。

「子育てするなら山形県」といわれる中で、一人っ子の出生にとどまることのないように生んで、育てやすい山形であって欲しいと願います。ぜひとも県内統一した形になれるよう、助成制度について検討を願います。

そしてもう一つ園で働く保育士の給料、福利厚生の部分も認可保育園と比べて大変大きな差があり、今、現状としては十分な状態ではありません。少しでも改善していき、働く意欲ということに繋がっていけるように園に対しての助成のほうも検討を重ねてお願いしたいと思います。

今年度、衛生管理強化設備費ということで助成をいただくことになりました。こちらのほうではインフルエンザ対策ってことで子どもたちが健康で育ってくれるような有効なものに使わせていただきたいなと思っております。先に述べた2件についてはどうか検討をお願いします。

(知事)

はい、どうもありがとうございます。本当に37名のお子様を預かっておられるということで、冬も長岡山に散歩に連れてってくださっているというお話お聞きして、日々、健やかに子どもたちが育つように一生懸命がんばってくださって本当にありがとうございます。

認可外保育所ということですが、認可外保育施設の運営に対する国の助成制度はありませんが、本県では低年齢児、また、待機児童の受け入れを担っていただいている認可外保育所、保育施設の重要性というものを大変認識しておりまして、施設に対して県独自に助成を行っております。

今年度からは、認可外保育施設すこやか保育事業費補助金として、これまで0歳児3名以上を受入れている場合に定額で助成していたものを、0歳児1名から人数に応じた助成と見直しております。

また、待機児童受入れ加算につきましても、待機児童を3人以上を受入れている場合の定額助成から、1名以上でも人数に応じた助成へと拡充を行ったところであります。

さらに障がい児を受入れた場合の助成も今年度から認可外保育施設を新たに助成対象としております。これらの拡充の結果、今年度の予算額ですが、前年度に比べまして約1.8倍予算を多くしてございます。県としましては引き続き市町村と連携しながら、認可外保育施設に対する支援を行ってまいりたいというふうに考えております。市長さんいかがですか。

(寒河江市長)

今、知事さんお答えになりましたけども、施設の運営に対しては県、そして市も負担をして助成をあるわけですけども、保育料の軽減については3歳から5歳までの認可外保育

施設にはあるわけですが、0歳から3歳まで受け入れてる場合は現在ありません。

先ほどおっしゃるように今度天童のほうで新たにそういう制度を創設してるということでもあります。天童が県内で初めての施設、制度ということになります。われわれとしてもあっちがやったから、こっちがやらなきゃいかんとか、そういうことでもならないわけではないですけどもね、われわれ十分にそういう、子どもはやっぱり地域の宝でありますから、ぜひそういった面で制度を、充実をしていきたいというふうに考えております。もちろん、県のほうとも十分相談をしながらですね、そういう制度の充実に向けていく必要があるというふうに考えております。検討していきたいというふうに思います。

(司会)

次にご発言のある方、お願いします。

#### 【14 つや姫のブランド化について】

☆私は水稲、さくらんぼ、花きを主体に農業経営に取り組んでおります、認定農業者です。本日はつや姫の母であります吉村知事にお会いできて大変光栄に思っております。ということにより、つや姫のさらなるブランド化についてですね、意見を述べさせていただきますと思います。

吉村知事がつや姫の母として、JA 中央会会長とともにトップセールスとして先頭に立って、全国にアピールしている姿には感銘を受けております。今年のような猛暑の中、はえぬきなどの品種が品質低下で非常に困っている中、つや姫は 90%以上が 1 等米であり、素晴らしい品種であるということを確認いたしました。

高速道路の寒河江インターに「紅秀峰、つや姫の里」の看板を寒河江市長、代表理事、組合長のご配慮により、設置していただきました。寒河江市役所および JA の玄関にも同じ看板を掲げております。新潟のコシヒカリから山形のつや姫へ、そして、新潟魚沼のコシヒカリから寒河江西村山のつや姫への政権交代を目指し、寒河江西村山つや姫研究会を設立して努力しております。

その中で成分分析項目のタンパク質の部分で県の定めている基準のハードルをより高くしたプレミアムつや姫への取り組みも実施しております。そして JA により、高く販売していただくことにしております。

このようなことから、つや姫を栽培したいという声、そして規模を拡大したいという声が仲間からたくさん出ております。しかし、今年の価格では経営が成り立っていきません。ぜひ、早急にブランド化を確立していただき、夢のあるつや姫の栽培を実現し、生産者がつや姫、そして米を作って飯が食えるようなブランドにしていきたいと、さらなる期待をいたしまして、私の意見とさせていただきます。よろしく申し上げます。

(知事)

はい、ありがとうございます。つや姫のお話でございました。紅秀峰の里の看板も設置して、本当に素晴らしいと思います。

つや姫は昨年先行デビューでありましたけども、今年が本格デビューということで、やっと全国デビューしたわけでございます。本当に県をあげて宣伝しておりますけれども、新しい米ということで宣伝できるのは今年だけです。もう、できるかぎりのピーアールをやっております。私も先頭に立ってやっております、全農さんもがんばっております。

ただ、本当にブランドをつくるというのは、実は消費者だと思います。やはり全国の消費者の皆さんだと思います。ですから、消費者の皆さんに食べていただいて、名前を知っていただいて食べていただいて、それでブランドが確立するということになるんだと思います。

今のところですね、広告ピーアールのほうも功を奏しております、少しずつ知名度が出てきたのではないかとこのように思っております。3、4日前にはNHKの朝ドラの次ぐらいにお米の放送がありまして、1等米と2等米の説明があったその次に新しい品種っていうのがでて、お米屋さん、東京のお米屋さん取材にいったらしいんですね、NHKが。それで、そのお米さんが第一番目は山形県のつや姫ということをおっしゃって、二つ目として北海道の「ゆめぴりか」というものを紹介しておりましたね。大変ありがたいと思った次第でございました。

これからもですね、ブランド確立していくためには生半可ではないと思います。私だけとか全農だけというのではとてもとても大変です。県民の皆さんお一人お一人がやはり動いてくださることが大事です。

もう社会を変えようと思ったら、まず人間が変わらなければいけない、人間が人間を変えようと思ったら、自分が変わらなきゃいけないという言葉もあるくらいで、皆さんお一人お一人がやはり県外の方に、うちの山形県の新しいおいしい米できたから、つや姫っていう名前だって電話なり、ハガキなりで教えていただくとか、またご贈答に使っていただくとか、具体的に本当に県民パワーでやっていただくことが私は一番大きな力になって山形県のブランド米ができるんだと思います。

本当に悔しいと思うのは、山形県に「はえぬき」っていうおいしい米あるんだけど、ブランド米になってないがために安いんですね。米の主産地としても山形出てこないんですよ。「山形、米作ってるのか」って言われるんです。作っています、だけど山形のブランドがない。名前が通っているものがないんです。

秋田は「あきたこまち」、宮城は「ひとめぼれ」あるんです。新潟、福井あたりは「コシヒカリ」ってのがあるんです。でも山形ないんですね。つや姫というものを県が10年以上歳月をかけて開発して育てた、ものすごい実力があるお米ですから、これはもう全国のご家庭に私は食べていただきたいと思ってお米です。

で、なんで、つや姫だけ宣伝するんだって言われるんですけど、今年やはり、新しいお米だということ売りが売らなすね。しかもそれが山形の米だということ山形の宣伝

になります。山形県を売って、宣伝していくっていうふうに私は思っているんです。つや姫っていうことを宣伝することで、山形県の宣伝になる。

そして山形ブランド一点突破で作ってですね、それで県産品もしっかり山形のものはいいものなんだっていうイメージを作って、売っていくという、そういう考えでありますので、単に米だけを売っているわけではない、山形県全体のブランドを売るんだという、そういう気持ちでつや姫宣伝にがんばっております。

ちょっと恥ずかしいぐらいポスターに写ったりですね、あのようなことは本当に私としては、とてもちょっと穴があったら入りたいぐらいなんですけれども、でもモデル代払えないという県職員のアイデアもありましてですね、もう私で役に立つことならということで、必死でがんばっております。

この間の立命館大学の講義もやってきたんですけど、そこでもつや姫を宣伝し、また、観光も宣伝し、山形県民歌の「最上川」を歌ってまできまして、大変山形県少しでもいい印象づけができたんじゃないかなというふうに思っております。

講義終わった後の取材、インタビューの中で、法学部3年生の男子学生が、「つや姫食べてみたい」と言ってくれたそうでもありますから、山形ファン、どんなところへ行ってでも、ちょっと作るぞというような意気込みでこれからもがんばっていきたいと思っております。どうもありがとうございます。